

ため池の 保全・管理活動事例集



平成25年6月

農林水産省 農村振興局 防災課

目 次

1. はじめに	1
2. 保全管理活動事例の概要	2
3. 期待される管理活動のあり方	4
4. 保全・管理活動事例	5

1. はじめに

ため池の多くは、農家や水利組合等で管理されてきましたが、近年では農家の減少や農業者の高齢化が進み、農業関係者のみの管理は困難となり保全・管理体制の脆弱化が進行しています。

また、農村地域の一部では混住化が進むなどして、周辺環境が変化しているため池も少なくありません。

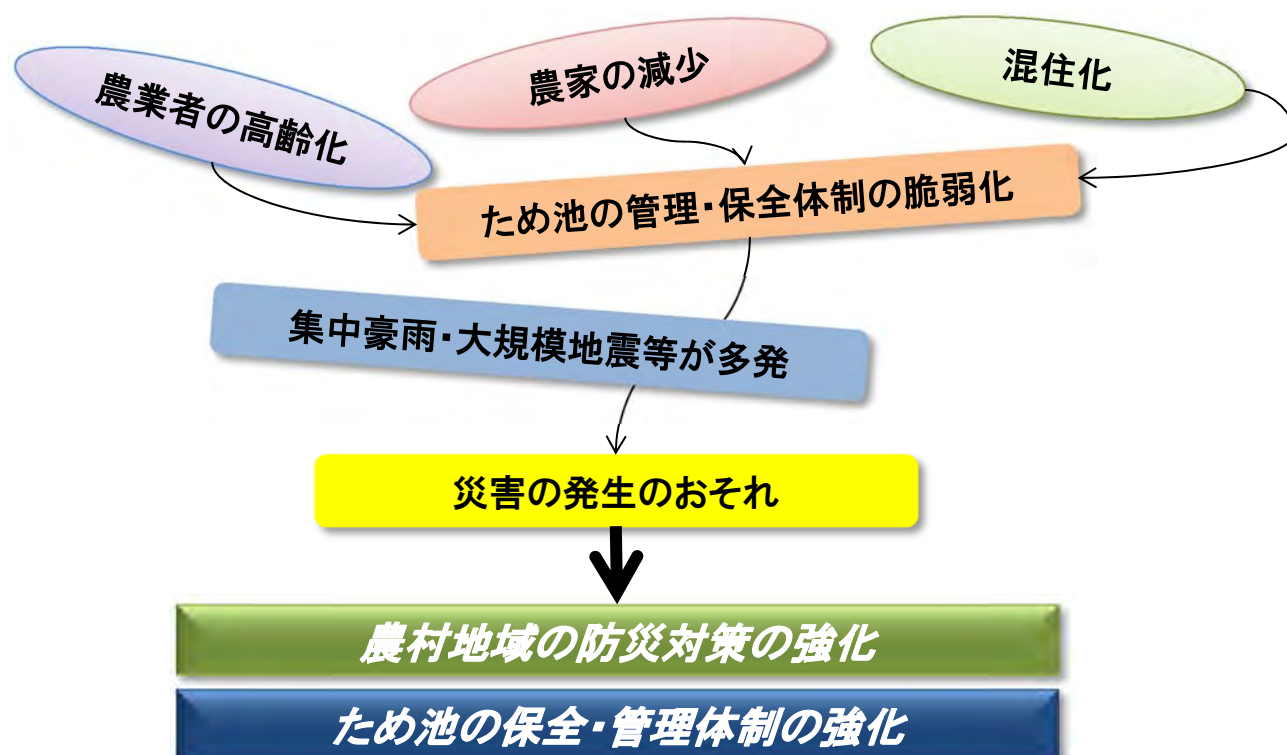
一方、近年では、集中豪雨や大規模地震が多発していることから、ため池の老朽化対策や耐震対策を行い、農村地域の防災・減災対策を強化する必要があります。

ため池の適正な保全・管理は、施設の長寿命化を図るだけでなく、防災対策の基礎となるものであることから、管理体制や周辺環境に応じて、適正に保全管理していく必要があります。

このため、各地域において、ため池の保全管理活動が強化されるように都道府県における様々な保全管理活動事例を参考資料として取りまとめました。

本事例集には、農業関係者以外の団体等とともに活動を実施している例や活用した事業について記述していますので、各地域において、本事例集を参考に保全・管理活動を検討して頂くとともに、実施に向けた取組を行って頂けるようお願いします。

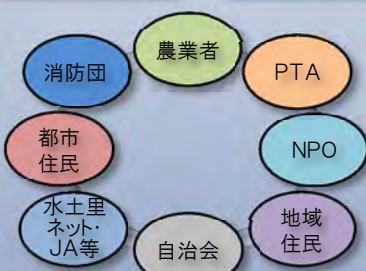
また、これらの活動は、継続的に実施されることが重要ですので、既に活動を実施されている地域においても本資料を参考に継続的な保全・管理活動が行われるよう検討をお願いします。



2. 保全・管理活動事例の概要

都道府県から収集した事例の概要は下表のとおりです。

補助事業（農地・水保全管理支払交付金）

管理者	取組内容	成果等
・市町村 ・土地改良区 ・水利組合	【施設の保全・管理】 ・草刈り、定期点検 ・施設補修 ・看板などの設置 ・体制整備	・施設の適正管理 ・安全性の向上
活動組織 	【啓蒙普及】 ・歴史、文化等の学習会	・後継者や児童へ役割、重要性、危険性を周知
	【自然環境】 ・希少種保護 ・外来種駆除	・自然環境の保全 ・多面的機能の広報

工夫した点

- ・学校や地域の団体との連携
- ・施設を教育の場として提供
- ・非農業者と連携した活動の実施

都道府県・市町村単独事業

管理者	取組内容	成果等
・市町村 ・土地改良区 ・水利組合	【啓蒙普及】 ・地域資源と防災の啓蒙活動 ・一般住民へ施設機能や管理の重要さの認識を深めるイベントを開催	・整備内容と実施者を明確化し計画を策定 ・実体験により一般住民の認識を高揚
事業主体 ・都道府県 ・市町村	【自然環境】 ・希少種保護 ・外来種駆除	・自然環境の保全 ・多面的機能の広報
連携相手 ・都道府県 ・市町村 ・団体 ・地域住民 ・NPO法人 ・コンサルタント		

工夫した点

- ・ワークショップにより整備計画を検討
- ・池干しと併せて歴史なども説明
- ・非農業者と連携した活動の実施

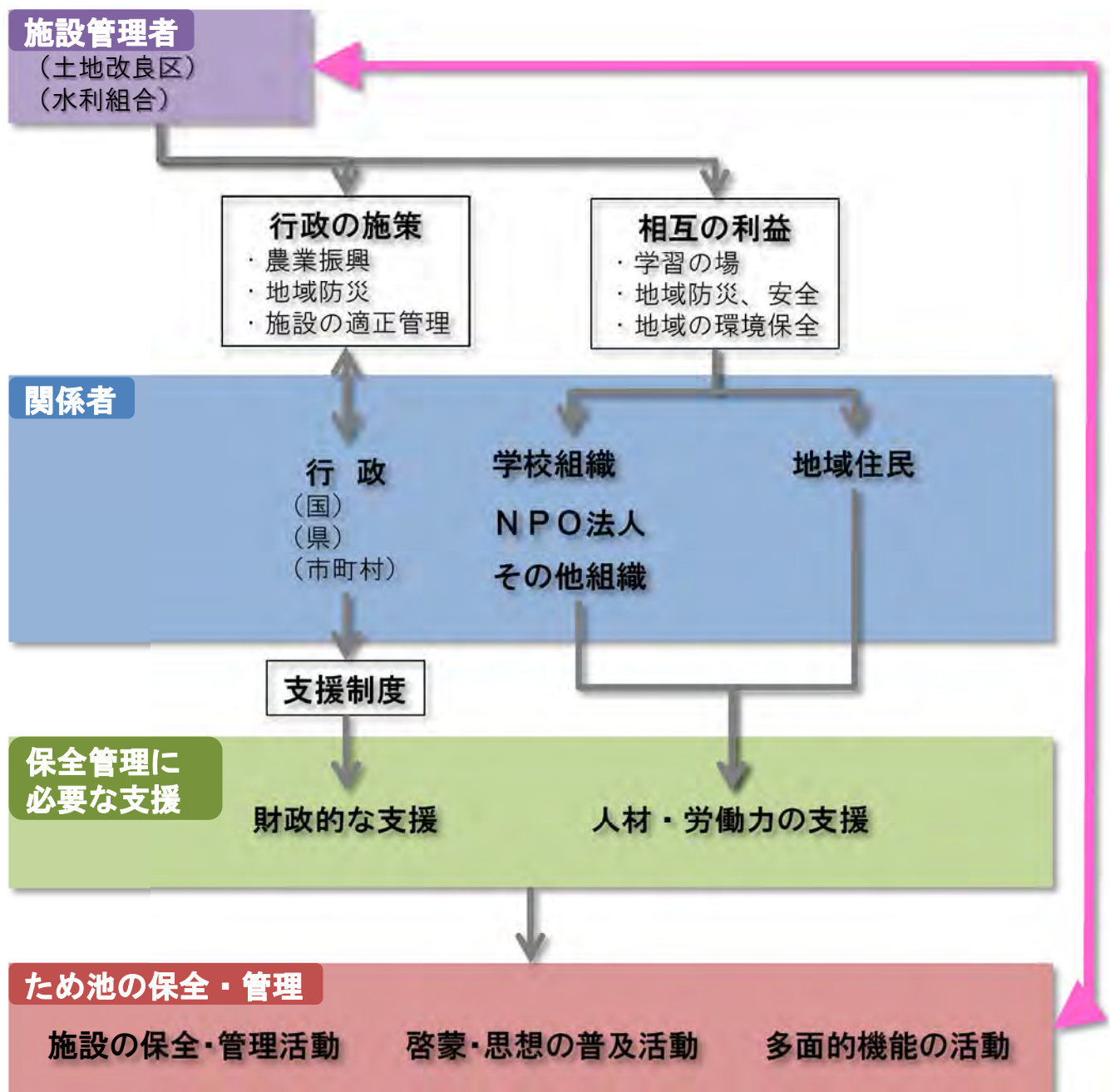
事業を活用していない活動例

管理者	取組内容	成果等
・市町村 ・土地改良区 ・水利組合	【施設の保全・管理】 ・草刈り、清掃活動 ・施設補修	・施設の適正管理 ・安全性の向上
連携相手 ・都道府県 ・市町村 ・大学 ・小中学校 ・地域住民 ・団体	【自然環境】 ・希少種保護 ・外来種駆除	・自然環境の保全 ・多面的機能の広報
工夫した点 ・大学の研究室とタイアップ ・農業者と漁業者の交流 ・非農業者と連携した活動の実施		

3. 期待される管理活動のあり方

各地域において、都道府県及び市町村の行政、ＪＡや土地改良区及び水利組合等の農業者、ＮＰＯ法人や学校などの外部組織、地域住民が連携して、施設管理、啓蒙普及活動、自然環境等多面的機能の発揮などの活動が行われており、これらは、補助事業や交付金、県・市町村単独事業による補助の有無に拘わらず活動されています。

このことから、今後、ため池の保全・管理活動を継続し、発展させるためには、以下のように施設管理者である土地改良区や水利組合が他の組織や地域住民と相互の利益を見出し、繋がり・関係を持ち、他の組織が人材や労働力を提供し、行政が施策として財政的な支援などを行うことにより、関係する複数の団体や個人により、保全・管理されるあり方が期待されます。



4. 保全・管理活動事例

各事例は、以下の記入要領により収集したものです。

各地域において、これらの事例を参考に各関係団体などとの連携を検討して頂き、ため池の多面的機能などを見出すとともに、地域によりため池が保全・管理されていくことを期待します。

【記載要領】

都 道 府 県 名	〇〇県	市 町 村 名	〇〇市	
た め 池 管 理 者	ため池の管理者（管理委託先）		ため池規模	かんがい受益 ha
連 携 活 動 状 況	写真・概要図等			
事 業 主 体 又 は 活 動 組 織	連携事業等の事業主体もしくは連携活動の中心的役割を果たした組織 （農地・水保全管理支払交付金または事業のない場合は、活動組織）			
連 携 相 手	連携した相手（組織）			
活 動 事 業 名	公共事業等活用した制度			
課 題 ・ 取 組 内 容	活動連携を行う前に生じていた、管理等の問題点について具体的に記載。その問題に対し、どのような取組を実施したか記載。			
工 夫 し た 点 等	連携のために問題となった事項や工夫した内容について記載。			
成 果 ・ 今 後 の 課 題	活動連携を行った結果、どのような効果が得られ、また今後どのような課題が浮かび上がったのか、具体的に記載。			
そ の 他	活動にかかった費用、参加人数等の活動規模が分かる内容及びその他補足事項を記載。			

都道府県名	宮城県	市町村名	角田市	
ため池管理者	角田隈東土地改良区		ため池規模	119 ha
連携活動状況	※ 9つのため池の合計面積			
				
事業主体	角田隈東土地改良区			
連携相手	「地域のため池を考える会」、角田市、宮城県			
活用事業名	県単中山間地域等農村活性化住民活動支援事業			
課題・取組内容	本地域のため池(9箇所)を対象に、その多様な資源の啓蒙普及と老朽化等によって予想される災害を未然に防止するための地域活動を実施することを目的に設立された「地域のため池を考える会」の活動として、ワークショップ形式により話し合いを6回開催。			
工夫した点等	①地域が4つの集落等に分かれているが、地域の現状を理解してもらうため、地区のため池のみでなく、参加者全員で地域内ため池の現地調査を行った。 ②各ため池の歴史文化、動植物、ため池の状況等を「活用している」「活用できそう」「活用は難しい」等の項目に分け、提案や希望を出し合った。 ③②をもとに、1年を通して「実践してみたい地域活動の『夢』」や「整備して欲しい施設」の希望等を取りまとめた。			
成果・今後の課題	「隈東地域の将来像」として、①「ため池整備に関すること」、②ため池及びため池周辺の管理に関すること、③「地域の活性化に関すること」に分類し取りまとめた。 ↓ ①については、行政主体で地域ため池総合整備事業を活用し、ため池整備を行うこととした。 ②、③については、地域主体での管理を促すため、保全隊を設立することとした。			
その他	平貫地区(猿田ため池・20人 草刈り機刃、燃料、芋煮材料 56,306円) 仙石地区(仙石ため池・16人 草刈り機刃、苗木代 49,286円) 内町地区(内町ため池・55人 竹細工交流費(流しそうめん、お茶)、りんどう培土 50,282円) 島田地区(諏訪部・池田ため池・58人 草刈り機刃、燃料、ホテル観賞会用お茶、47,472円) ワークショップ(延べ96人、デジタルカメラ、郵送料、お茶 39,200円) 合計 延べ245名 242,546円			

都道府県名	宮城県	市町村名	東松島市	
ため池管理者	東松島市		ため池規模	3 ha
連携活動状況				
活動組織	中下区環境保全隊			
連携相手	—			
活用事業名	農地・水保全管理支払交付金			
課題・取組内容	水路や農道の保全活動と併せて、ため池の適正管理として、草刈りや定期点検を実施し、かんがい期前の付帯施設の清掃、除塵等を実施。また、異常気象時の施設の安全確認や必要に応じ応急措置を実施。			
工夫した点等	地域の資源としてため池の規模、機能を認知し、施設を安全に使用するための適正管理について理解を深めた。			
成果・今後の課題	保全隊(地域住民)により適正管理が継続的に実施された。			
その他	参加人数39名(農家33名、非農家6名)、作業時間:4時間、経費:171,700円(日当126,400円、機械(草刈り機)45,300円)。 年間5回実施(内 草払い等3回)、参加延べ人数117名、経費394,000円。			

都道府県名	静岡県	市町村名	三島市	
ため池管理者	中郷用水土地改良区		ため池規模	186 ha
連携活動状況	中郷温水池			
 				
事業主体	中郷用水土地改良区			
連携相手	市、NPO法人(グランドワーク三島)			
活用事業名	－			
課題・取組内容	NPO法人グランドワーク三島が中心となり、中郷用水土地改良区や三島市と協働し地域住民参画による水辺や中州の草刈り、清掃活動を実施するなど継続的にため池の保全活動を実施。 市と部農会・グラウンドワーク三島・市民とによる協働作業により、外来種の除去作業なども実施。			
工夫した点等	池周辺の自然植生を復元したことにより、三島市の中心部に存在しながら貴重な自然と触れ合うことのできる水と緑の景観を創出した。			
成果・今後の課題	ため池百選に選定され、知名度を上げた。 水辺自然環境の再生を行ったことで、隣接する小中学校による実践的な環境教育の場や市民の憩いの場として多目的に利活用された。 ため池上流の源兵衛川と併せて散策コースの一部となっており、都市住民を巻き込んだ清掃活動などにより地域活性化に大きく貢献した。			
その他	生き物調査等 約30名 参加 (費用6万円)／回			

都道府県名	静岡県	市町村名	掛川市	
ため池管理者	水利組合		ため池規模	63 ha
連携活動状況	田ヶ池			
 田面の草刈り (農地・水保全管理支払交付金の活動)  田ヶ池内での「クリーン作戦」の様子  中小学校の生徒達に田ヶ池の歴史や 役割を伝える学習会の開催  中小学校と活動組織による看板設置				
活動組織	中地域緑化を進める会			
連携相手	農業者、自治会、JA遠州夢咲、大井川右岸土地改良区、中小学校 等			
活用事業名	農地・水保全管理支払交付金			
課題・取組内容	平成20年度から「農地・水保全管理支払交付金」に取り組み、田ヶ池周辺の住民だけでなく、自治会やJA、大井川右岸土地改良区等と連携し、地域全体で「田ヶ池」や周辺の農地・農業用施設の保全活動を実施。			
工夫した点等	地域の将来を担う子供たちに、ため池の役割・歴史を伝えるため、年1回、中小学校の生徒を対象に「田ヶ池学習会」を開催している。 また、地域内を流れる亀惣川で生きもの調査を実施し、河川美化への意識向上を図るために活動組織と小学校が連携し看板を設置する等、地域の自然環境へ関心を持ってもらう活動を積極的に行っている。			
成果・今後の課題	「田ヶ池」は地域の財産という意識で景観保全活動に取り組んでおり、地域住民が景観保全の重要性を再認識し、施設の維持管理を通じて自然環境への愛着を持つことができた。 今後も地域が一体となった活動で、農地が保全され、次世代の担い手へ継承されていくこと、親水公園、展望デッキ、遊歩道等の施設を活用し、多くの人が親交の場として「田ヶ池」に訪れ、地域の活性化が図られることが期待される。			
その他	参加人数 延450名 活動費用 300,000円			

都道府県名	長野県	市町村名	上田市
ため池管理者	塩田平土地改良区(保野農家組合)	ため池規模	50 ha
連携活動状況	 コンクリートブロック・目地等補修  筆リンドウ保全活動 		
活動組織	保野水土里会		
連携相手	—		
活用事業名	農地・水保全管理支払交付金		
課題・取組内容	ため池堤体上流法面保護工において、経年劣化によるコンクリートブロックの欠損等が著しいため、農地・水の活動地域内に指定し、同交付金を活用して目地、コンクリートブロックの補修を実施。 また、ため池下流法面に自生する希少植物の保全活動や、保護のための看板設置を実施。		
工夫した点等	農家組合は自主財源が脆弱なため、農業用施設の補修には、行政や関係団体に大きく依存してきたが、小修繕などは、農地・水等を活用し、非受益者へ協力を得て、計画的な活動や直営施工で実施することにより工事費を安価に抑えた。		
成果・今後の課題	次世代に良好な環境を引き継ぐため、継続的な活動としていきたい。		
その他	工事概要 法面保護工補修 1 式、看板設置工 1 式 工事費用 約600千円(農地・水)		

都道府県名	富山県	市町村名	氷見市	
ため池管理者	氷見市土地改良区		ため池規模	2 ha
連携活動状況				
事業主体	乱橋池周辺のトンボと自然を守る会			
連携相手	氷見市海浜植物園、氷見市生涯学習課			
活用事業名	富山県農村環境創造基金事業			
課題・取組内容	乱橋池周辺の休耕田の増加、山林の放置などにより、古タイヤ等が不法投棄されるなど、周辺環境の変化による生態系の悪化が進行していた。 これを防止するために、草刈をはじめとしたため池周辺の維持管理活動を実施。			
工夫した点等	絶滅危惧種を含めた65種類のトンボが存在していることから、乱橋池周辺のトンボと自然を守る会のほか、地元自治会・地元小学校・土地改良区や市などと維持管理について検討会を実施した。			
成果・今後の課題	地元小学校によるトンボの観察会やボランティア等によるトンボ教室など、乱橋池を環境学習の場として活用している。 乱橋池周辺には、民有竹林があるが極端な繁茂、放置は生態系に悪影響を与える。これらの管理や管理に要する費用が今後の課題となっている。			
その他	写真 トンボ観察会(2012年度 親子トンボ教室) 参加者:親子15組(30人)			

都道府県名	福井県	市町村名	永平寺町
ため池管理者	松岡吉野土地改良区	ため池規模	2 ha
連携活動状況	生物捕獲状況  ため池生き物観察状況 		
活動組織	吉野の郷を守る会		
連携相手	地元、小学生		
活用事業名	農地・水保全管理支払交付金		
課題・取組内容	外来種目当ての釣り人が増加し、ため池施設での水難事故を未然に防ぐ周知及び希少水生生物の保護を目的とし、平成19年度において、当ため池の生態系調査及外来種駆除を実施し、平成23年度に外来種駆除の経過を観察。		
工夫した点等	小学生の教育を兼ねて実施したが、地元との日程調整や案内等に苦労した。		
成果・今後の課題	今回の生態系調査では、前回外来種を排除した効果もありアメリカザリガニ(10匹程度)は確認されたが、その他の外来種は見られずギンブナやカワムツ等の在来種が多数発見できた。また新たにコイを放流したが、問題なく生息していた。 今回の結果には問題ないが、今後、外来種が発生しないよう継続して管理する必要がある。また外来種が発生した場合の対応方法など、検討する必要がある。		
その他	参加人数 20名程度 費用 6万5千円 本地区は環境に関心を示す人が多い		

都道府県名	岐阜県	市町村名	土岐市	
ため池管理者	土岐市		ため池規模	104 ha
連携活動状況	  			
事業主体	岐阜県			
連携相手	土岐市、地元住民、コンサルタント			
活用事業名	清流の国ぎふ森林・環境基金事業			
課題・取組内容	農業用ため池は、農業用の水を貯めておく役割だけではなく、魚や貝、昆虫等の多くの生きものが生息する里地の一部を形成しているが、近年は耕作放棄地の増大によるため池の管理不足、外来種の侵入など様々な要因により環境が崩れつつあるため、ため池に生息する外来種を駆除することにより、里地の生態系の保全を図るモデル的な取組み等を推進。			
工夫した点等	ため池の水を抜く際に外来種が下流へ逃げないように、水路に何箇所も網を設置し捕獲した。泥が多く堆積していたため、ため池に入っただけでの捕獲は不可能であったが、ボートなどを活用して捕獲を行った。また、捕獲した魚類の同定作業を行い、在来種については近隣のため池に放流し保護した。			
成果・今後の課題	結果的に本ため池は在来種が多く外来種の生息数は少なかったが、ため池の水位をかなり下げたことで大部分の外来種を駆除することができた。（駆除した魚類：ブラックバス等79匹） 今後は、外部からの放流を禁止する啓発看板を設置すると共に、地域において同様の活動を推進していきたい。			
その他	参加人数：46人（地元住民、コンサルタント、土岐川観察館、土岐市、県） 活動費用：約500千円			

都道府県名	愛知県	市町村名	半田市
ため池管理者	半田市	ため池規模	17.5 ha
連携活動状況			

南廻間池 池干し見学

有脇の農地・水・緑を守る会と有脇小学校児童、総勢500名以上による南廻間池の“かいどり”（池干しの地元呼称）の状況を見学しました。



有脇の農地・水・緑を守る会による説明



児童参加による“かいどり”状況

活動組織	有脇の農地・水・緑を守る会
連携相手	有脇小学校児童、地域住民、愛知県知多農林水産事務所等
活用事業名	農地・水保全管理支払交付金
課題・取組内容	有脇の農地・水・緑を守る会の活動エリアに5つのため池があり、毎年1箇所ずつ、池干しを実施し外来魚の駆除、水質の改善を図っている。
工夫した点等	子供が安全に池に入ることができるよう、足袋を履き、池に下りるための梯子を設置した。 外来魚の捕獲方法を説明した。 在来魚を保護するための大きな水槽を作成した。
成果・今後の課題	平成22年に開催した「2010ため池フォーラムinあいち」で池干しの事例発表。同現地見学コースに組み入れ、小学生が外来種の駆除をしている姿を参加者に見学してもらった。
その他	活動費 109千円（足袋、道具、食材等） 参加人数 計 525名（小学生 192名、父兄、先生、ため池フォーラム参加者 他）

都道府県名	京都府	市町村名	綾部市	
ため池管理者	綾部市(受益者)		ため池規模	0.9 ha
連携活動状況				
活動組織	西和の里協議会			
連携相手	—			
活用事業名	農地・水保全管理支払交付金			
課題・取組内容	木栓が古くなってきていることに加え、開栓のために水面近くまで行くことは危険であると以前から集落内で話題に上っていたことから、農地・水保全管理支払交付金を活用して金属栓に更新。			
工夫した点等	農地・水の活動組織内の構成による直営施工として工事費を安価に抑えた。			
成果・今後の課題	堤体の上からも開栓できるようになり、施設の安全性の向上が図られた。 この集落にはため池が多く、まだ同じようなため池が多く存在するため、順次更新していく。			
その他	工事費用 336,365円(農地・水)			

都道府県名	大阪府	市町村名	堺市
ため池管理者	堺市太田之内土地改良区		ため池規模 3 ha
連携活動状況	 じゃがいもオーナー制度  遊休農地を活用した田植え  植栽活動  ため池ブランド農産物直売  地域づくりワークショップ  陶の里ウォーキング  ため池全景		
事業主体	陶の里水系協議会(改良区、水利組合、自治会で構成)		
連携相手	府立大学、自治会、小中学校、堺市		
活用事業名	平成14年度に農林水産省の「地域ぐるみため池保全活動支援事業」を活用		
課題・取組内容	ため池改修を契機に、改良区、自治会が連携して地域づくり活動を開始。 活動内容:ため池、水路の清掃活動。オーナー農園。市民農園。遊休農地再生。植栽。直売。情報誌の発行。イベント開催。 高齢化、担い手不足の中、リーダーや活動者不足が懸念される中、継続、発展した活動となるよう府立大学と連携。		
工夫した点等	平成14年に「午池水系ため池保全協議会」として設立後、平成20年4月に現在の名称に変更。 府立大学の研究室とタイアップし、コーディネーター、ファシリテーターとして継続支援。 ため池に加え、地域の農の資源を活用し、都市住民との交流、資金確保。 情報発信グループ、花と緑の里づくりグループなど多様な活動グループとリーダーを育成。 季刊誌「陶の里便り」の発行も36号を迎え、情報発信に努めている。		
成果・今後の課題	地域活性化、環境保全面では効果大。 フェンス、ゲート、水路などハード施設の更新、管理は高齢化、担い手不足である改良区が継続して行う必要がある。		
その他	府では、オアシス構想に基づき、多様な主体によるオアシスコミュニティ協議会による、さまざまな保全活動に取り組んでいるが、農用地が少なく農地・水保全管理等対象外。		